

第 6 章

林 業

## 第 6 章 林 業

### 概況

大阪府の森林は、都市化が高度に進んだ大阪平野を北から北摂、金剛生駒及び和泉葛城の三山系により取り囲むような形で位置しており、林業の基盤としてだけでなく、天与のグリーンベルトとして、水源の涵養、山地災害の防止、保健休養等の多様な公益的機能を果たしている。

これを森林植物帯からみると、大部分は暖帯林で、一部には温帯林も見られる。しかし、現在の森林は大部分が「あかまつ」、「くぬぎ」、「こなら」等の二次林、あるいは「すぎ」、「ひのき」等の人工林である。なかでも、金剛、葛城山系では「すぎ」、「ひのき」が集中し、府内で最も集約的な林業が営まれている。

### 林家数

大阪府の林家数は2000年世界農林業センサス(平成12年2月1日現在)によると、1万540戸である。その内訳は農家林家数が1633戸(構成比15.5%)、非農家林家数が8907戸(同84.5%)で、非農家林家が圧倒的に多い。

### 林野面積

大阪府の林野面積は5万6838haで、前年より76ha減少した。

その内訳をみると、民有林野面積は5万5576haで前年より76ha減少したが、国有林野面積は1040ha、官行造林面積は222haで前年と変わらなかった。

大阪府総面積18万9359ha(平成14年4月1日現在)に占めるそれぞれの割合は、国有林野面積が0.5%、民有林野面積が29.3%、官行造林面積が0.1%である。

府内の林野面積の97.8%を占める民有林野のうち、立木地は5万2914haで前年より57ha減少し、民有林野面積の95.2%を占めている。その内訳は、人工林が2万6994ha(構成比51.0%)、天然林が2万5920ha(同49.0%)となっている。また、樹種別内訳は針葉

樹が3万8703ha(構成比73.1%)、広葉樹が1万4211ha(同26.9%)となっている。

民有林野面積を市町村別にみると、能勢町が7683ha(構成比13.8%)で最も多く、河内長野市7320ha(同13.2%)、高槻市4491ha(同8.1%)の順となり、この3市町で全体の35.1%を占めている。

### 林野蓄積量

大阪府の林野蓄積量は741万6600m<sup>3</sup>で、その内訳をみると、国有林野蓄積量は17万6000m<sup>3</sup>で前年と変わらなかった。民有林野蓄積量は729万9000m<sup>3</sup>で前年より7万6000m<sup>3</sup>(1.1%)増加したが、官行造林蓄積量は1万1600m<sup>3</sup>で前年と変わらなかった。民有林野蓄積量のうち人工林は458万m<sup>3</sup>(構成比62.7%)、天然林は271万9000m<sup>3</sup>(同37.3%)である。また、樹種別内訳は針葉樹が644万7000m<sup>3</sup>(構成比88.3%)、広葉樹が85万2000m<sup>3</sup>(同11.7%)である。

民有林野蓄積量を市町村別にみると、河内長野市が124万6000m<sup>3</sup>(構成比17.1%)で最も多く、以下、能勢町77万7000m<sup>3</sup>(同10.6%)、高槻市59万8000m<sup>3</sup>(同8.2%)の順となり、この3市町で全体の35.9%を占めている。

### 苗木生産量等

山行造林用苗木の生産量は12万9000本で、前年より5万5000本(29.9%)減少した。樹木別にみると、「ひのき」が11万1000本(構成比86.0%)で最も多く、以下、「くろまつ」が1万2000本(同9.3%)、「すぎ」が6000本(同4.7%)となっている。

大阪府内の林産物素材の生産量は2万m<sup>3</sup>で、前年より6000m<sup>3</sup>(23.1%)減少した。林産物素材の入荷量(府内生産量を含む)は6万8000m<sup>3</sup>である。

### 市町村別森林資源面積（民有林）（平成14.3.31）

